

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

381号

2022年12月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

南北対話を忘れた尹錫悦大統領 韓米同盟と韓米日安保協力強化に専心する危うさ！

10月6日、朝鮮の弾道ミサイル発射に伴い、尹大統領は岸田首相と電話会談を行い「韓米日3者間の安全保障協力はもちろん、国連の安全保障理事会を含む国際社会と強く連帯していく」ことで一致したと明らかにした。南北対話より韓米同盟と韓米日3ヶ国の安全保障協力で朝鮮を圧迫する道を選んだ。実際に9月30日、韓米海軍合同演習に日本の海上自衛隊が参加して対潜哨戒訓練を行った。これについては韓国内からも疑問の声が上がった。独島の領有権を主張する日本と領土保全のための軍事行動を共に行うことが可能なのかは当然の疑問だ。

サンフランシスコ講和体制の下、1965年の韓日協定と2015年の韓日「慰安婦」合意は、韓米日軍事一体化を望む

米国の圧力で成立したが、より大きな譲歩が韓国側に求められた。新冷戦下で徴用工問題など歴史清算問題が残る中、新たな譲歩を米国側から押し付けられることが懸念される。

11月13日、プノンペンで韓米日3ヶ国首脳会談が行われた。韓米日の軍事演習などに対応した朝鮮側の弾道ミサイル発射に共同で対抗する内容の共同声明が発表された。米国の韓日への拡大抑止強化と共同演習の正統性の確認と、ミサイル情報の迅速な共有など、朝鮮との軍事対決を盛り込んだ対策協議会の様相を呈している。

3ヶ国は2002年10月、メキシコのロス・カボスで金大中大統領とブッシュ大統領、小泉首相が参加する首脳会談が行われた。その時の内容は次の通りだ。

「3首脳は南北対話及び日朝国交正常化交渉が、朝鮮半島の非核化を求める国際社会の要請に対し、

北朝鮮（※正しくは朝鮮）が早急かつ説得力ある形で応えるよう求めていく上で重要なチャンネルとして資するということによって一致した。金大統領は最近、平壤で開催された南北閣僚級会談で、韓国が北朝鮮（※正しくは朝鮮）に対して核問題の迅速かつ平和的な解決のために直ちに行動するよう強く求めた旨を説明した。小泉総理大臣は、日朝国交正常化は日朝関係を促進するのみならず、地域の平和と安定にも寄与しなければならないことを改めて述べた。この関連で小泉総理大臣は、日

朝国交正常化交渉は、特に核問題を含む安全保障上の問題及び拉致問題に関し、日朝平壤宣言の完全な遵守なくして妥結されることはないことを強調した。ブッシュ大統領は、米国は北朝鮮（※正

しくは朝鮮）を侵攻する意図はないとした2月の韓国における発言とともに、米朝関係を転換するための大胆なアプローチを追求する用意があったということを変更して述べた（日本外務省）。対照的な内容で、問題解決のためには対決より対話が強調されていた。

バイデン大統領は「条件なしの話し合い」を繰り返している。「話し合い」の中身は朝鮮半島の非核化と言っているが、朝鮮の一方的な非核化だ。「条件なし」は現在朝米は休戦状態だ。つまり戦争状態が続いていることを前提に朝鮮の非核化を「話し合おう」という意味であり、朝鮮側は話し合いに応じる様子は見られない。

尹錫悦大統領は再び同族相食む戦争の悲劇を繰り返さないために、南北対話を再開することを切に求める。（鐵）



▲3ヶ国安保協力強化を進める韓米日首脳

1日も早く悪法である

国家保安法を撤廃させよう！

韓統連セミナー「ウリ現代史」第4回

韓統連大阪本部主催の韓統連セミナー2022シリーズ「ウリ現代史」第4回「国家保安法をなくすために」が11月20日（日）、KCC会館（大阪市生野区）で開かれた。

セミナーでは、金隆司（キム・ユンサ）韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「韓国では民主化が進んでいますが、悪法中の悪法である国家保安法は未だに存在しています。国家保安法をなくすためにはどうしたらよいか、報告と討論を通じて認識を共有していきましょう」と語った。

次に、崔誠一（チュ・ソンイル）事務局長から10月25日から28日まで、ソウルで行われた在日同胞招請事業「分断に立ち向かった人々、在日同胞との同行」の活動報告が行われ、崔事務局長は「訪韓中、国家人権委員長などに韓統連が国家保安法上の反国家団体に規定されているのは不当であり、韓統連は反国家団体ではないことを直接訴えたことは大きな成果」と語った。



▲報告を行う金昌範副代表委員

続いて、金昌範（キム・チャンボム）副代表委員が報告を行った。金副代表は国家保安法の制定から法の問題性について解説するとともに、歴代独裁政権が国家保安法を悪用して民主・統一団体・人士を弾圧してきた具体的事例を詳しく報告した。また「盧武鉉政権時代に国家保安法撤廃の気運が高まったが、保守勢力の猛反発などによって撤廃には至らなかった」と指摘した。

そして「国家保安法撤廃の説得力となる南北交流、統一運動を公開的に堂々と続けること、その

構えと実践なしに国家保安法を維持しようとする勢力には打ち勝てない」とし、南北交流と統一運動の重要性が訴えられた。

報告後は質疑討論が行われ、セミナーは終了した。

朝鮮半島の平和統一実現の声を

あまがさきから上げよう！

第13回ハナマダンあまがさき

「第13回ハナマダンあまがさき（主催：同実行委員会）」が11月23日（水・祝日）、尼崎中央公園で開催され、多くの在日同胞、日本人が参加した。

当日は雨天のため一部舞台演目が中止になったが、オープニングでコリア国際学園（KIS）学生たちによるK-POPダンスが披露され、会場の雰囲気盛り上げた。



▲コリア国際学園生徒によるK-POPダンス

続いて、秋龍（チュ・ヨン）実行委員長が主催者挨拶を行い「今年5月に尹錫悦大統領が誕生し、昨年までの良好的な朝鮮半島統一の流れから、大きく後退するのではないかと懸念される」と述べながら、「ハナマダンあまがさきは6・15共同宣言、4・27板門店宣言を支持する行事です。これらの宣言を支持し、朝鮮半島の統一に向けて前進していきましょう」と語った。

その後、舞台ではカレコレによる漫才、ちゃんへんによるジャグリングパフォーマンス、抽選会、川口真由美さんによるライブなどが披露された。

会場周辺ではビールに焼きそば、チヂミ、たこ焼き、フランクフルトなど多数の屋台が並び、ハナマダンあまがさきは盛況のうちに終了した。

【翻訳資料】 梨泰院惨事遺族たち「大統領は謝罪し、真相究明を徹底せよ」

梨泰院惨事遺族と民主社会のための弁護士の集い「10・29惨事」真相究明及び法律支援タスクフォース（緊急性の高い問題などを扱う一時的に構成された組織）は22日、民弁大会議室で記者会見を開き、6つの要求事項を発表した。

要求事項は遺族の意志を集めて作成したもので、現段階で最小限の要求を盛り込んだと民弁は明らかにした。この日、記者会見には遺族が直接参加し、惨事以後の心境と政府に望む事項を明らかにした。一部の遺族は犠牲になった子どもたちの写真を直接公開した。

下記は遺族たちの6項目の要求事項。

1 誠実な謝罪

政府は「10・29梨泰院惨事」の責任が梨泰院を訪問した人々にあるのではなく、政府・地方自治体・警察にあるという立場を明確に明らかにし、遺族・生存者をはじめ惨事のすべての被害者に誠実な謝罪をしなければならない。

憲法上、生命と安全を確保する義務を持つ大統領は、早急に惨事のすべての被害者に誠意ある謝罪を行い、責任ある後続措置を約束しなければならない。

2 聖域のない、厳格で徹底した責任究明

政府はすべての方法を動員して「10・29梨泰院惨事」を防止しなければならないすべての責任者を調査し、最も厳しい責任を問わなければならない。さらに惨事に対する責任を回避しようとしたり、偽の釈明をした者たちを厳重に問責しなければならない。

3 被害者の参加を保障する真相及び責任究明

政府は「10・29梨泰院惨事」の真相を徹底的に究明する一方、遺族・生存者を含む被害者に現在行われている真相及び責任究明の経過を説明しなければならない。

さらに真相究明の過程で遺族の意見が反映されるよう参加できる手続きを設けなければならない。

被害者が納得できる真相及び責任究明がなされなければならない。惨事当時だけでなく、惨事以前、惨事以後までの真相と責任がすべて解明されなければならない。

4 惨事被害者の疎通保障

人道的措置など積極的な支援

政府は遺族・生存者を含む惨事のすべての被害者が互いに疎通し、悲しみを共有する機会と空間を確保しなければならない。惨事以後、被害者が経験しているトラウマと各種困難を放置してはならない。

政府は被害者と積極的に疎通をとり、被害者に必要な事項を確認し、直ちに関連措置を取らなければならない。

5 犠牲者に対する完全な記憶と追悼のための積極的な措置

政府は惨事被害者に対する完全な記憶と社会的追悼のために、追悼施設の用意

など必要な措置を取らなければならない。政府は公開を希望する遺族の意思を確認し、遺族の意思に従って公開が可能な犠牲者の名前を完全な記憶と追慕のために公開しなければならない。

さらに空虚で形式的な哀悼ではなく、惨事の再発防止と社会的追悼のための政府の公的措置が必要である。遺族と協議し、犠牲者の名誉回復、記憶と追慕のための対策を早急に用意しなければならない。

6 2次加害を防止するための立場表明と

具体的な対策の用意

政府は無分別に発生している2次加害を黙認してはならない。政府は惨事が彼らの責任ではなく、政府の責任であることを明確にし、犠牲者に対する2次加害に反対するという正式な立場を表明しなければならない。これと同時に2次加害を防止するための具体的な対策を設けなければならない。

(韓国インターネット新聞 民衆の声より)



▲被害者の遺影を持ちながら会見する遺族

【感想文】

韓統連セミナーシリーズ「ウリ現代史」で学び

これらを今後どのように生かしていくか

井上 淳

韓統連大阪本部では今年7月から、韓統連セミナー シリーズ「ウリ現代史（計4回）」を開催しました。今号では「ウリ現代史」すべてに参加しました井上淳さんに、感想文を書いて頂きましたので掲載します。

「韓統連セミナー」にフル参加の感動と、あらためて思い知らされた連帯への思い。

連続企画のセミナーで知らされた自身の甘さ、無知、日本という社会の現実、あまりにも情けなく、弱すぎる実態、この真摯な問いかけに対し、深く反省の弁を述べたいと思う。

セミナーの最終回「ウリ現代史」第4回「国家保安法をなくすために」も、やはり痛切にわたくしを撃った。いまだ「どたま」をガンと打ちのめされた状況で、以下率直な感想を述べることをお許しください。

レジュメの最後の「国家保安法をなくすために一原則、そして運動論」には凄味を感じた。

「憲法が理想と形式の根本規範ならば、国家保安法は反共秩序を実現するという、より上位の国家目標を規律する実質的な根本規範である」。林鐘仁弁護士の言葉には飾り気なしの真実の思い。そして、講師のまとめの言葉も凄い。「反国家団体関連項目も含めた、国家保安法の全面廃止を闘うとともに、その訴えの説得力となり得る、北側との対話と交流を求めながらの統一運動を、堂々と公開的にやり続けること。その構えと実践なしに、いざとなれば国家保安法維持のために総力をかけてくる分断勢力に打ち勝てない」。

日本でもいわゆる「識者」からは様々な発言がある。白井聡の「主権者のいない国」からは「なぜ私たちは、私たちの政府はどうせロクでもないと思っているのか。その一方で、なぜ私たちは決して主権者であろうとしないのか。だが、責任とは何か。それは誰かに与えてもらうものなのか。そして、ここで言う責任とは誰に対するものなのか。それは究極的には自分の人生・生活・生命に対する責任である」。ほかに日米地位協定を問うものなど、それこそゴマンとある。

だが、これらいわゆる知識人、専門家などの発言と警告を、私たちは何度も何回も聞き、それを耳にしながら長年、比較的自由的な雰囲気の中で市民運動や政治運動にも参加してきた。がしかし、それらのほとんどは有効性が欠けた、実態を伴わない、うわべだけのものではないかと率直に思っ

ている。明治維新から敗戦まで77年、敗戦から今日までも77年、今、私たちは紛れもなく「時代の節目」に立っている、しかし、過去の植民地支配の清算すら居直り、知ろうと努力せず、片方から「平和ボケ」と揶揄されてもただ動揺するだけで何もできない私たち、これが真実だ。

「憲法を守ろう」が「九条を守ろう」にすり変わり、「防衛費・国民総生産の1%以下」も、政府が公然と2%を打ち出しても反応すら示さない。緊急の課題としての「基本的防衛の根本的見直し」攻撃にすら対応できていない。60年安保もあった、70年安保もあった、しかし、私たちに何か成し遂げたことがあったか？残念だが何も無い、何も無いのだ。

週刊金曜日1400号に「警察国家日本」「いまこの時も公安が情報を吸い上げている」「闘う者を闘わない者が笑うな、沖縄・座り込み現場の尊厳」などが表紙に躍っていた。そうだ、その通りだ、まさに私たちは世界から問われている。近隣の友人らからはより鋭く突きつけられている。「お前たちはどうするのだ」「この後、どう生きるのだ」と。

日本敗戦後の「解放」の喜びと苦悩、6・25戦争、「漢江の軌跡」とリンクした独裁、それらとの苦闘の末に勝ち取られた、数々の民主革命の勝利、その頂点としての「キャンドル革命」。しかも国家保安法は、いまだ皆さんの前に厳然と立ちだかっている！

だが闘えば何事も成し遂げられる！そうだ南北の平和的統一も実現可能なのだ。祖国訪問された皆さんの顔はそれこそ光り輝いていた！がしかし、皆さんのご苦勞はまだ続くと思う。

今後企画されるセミナーなどにも参加させて頂いて、この脆弱な私も体が許す限り、お付き合いして行きたいと思う。

今後もよろしくお願い申し上げます。



【コラム】 梨泰院とセウォル号 そのおそろしいまでの類似

～犠牲者たちの名前を永遠に記憶せよ～

■ふたたびキャンドルを掲げる日

2017年3月9日の夕方。私は関西空港に向かう空港バスに乗っていました。その日、空港に向かう客は私一人でした。突然、ソウルに行くことを決めたのは、朴槿恵の弾劾裁判が10日の午前に開廷されることが発表されたからです。

10時の裁判に間に合うためには前日に行かなければならないと思いました。バスの中で3年前に亡くなった一番上のオッパ（兄）のことを思い出していました。オッパに最後に会ったのは2014年4月末。私が6年間勤めた会社を辞めた直後でした。その時はこれがオッパとの最後になるとは思いませんでした。オッパはその時、セウォル号の惨事をどう受け止めていたのでしょうか。

「大統領 朴槿恵を罷免する！」というテレビの画面を憲法裁判所の前で見た瞬間、集まった人々は歓喜に包ま

れました。あの日のソウルの街のあたたかさ、行進する私たちを建物の窓から一緒に踊りながら応援していたアジュモニ（おばさん）の姿。その日の夜、光化門で開かれた最後のキャンドル集会の空に打ち上げられた爆竹と、その火花が目にかかって眩しかったことを今も鮮明に覚えています。

梨泰院の惨事の速報を見た時、フェイクニュースだと思いました。あの梨泰院でそんなにもたくさんの命が亡くなるなんてありえないと思ったからです。すぐにMBCニュースをつけて事実であることを知りました。尹錫悦が大統領になってから、ニュースを見るのが苦痛な毎日でした。キャンドル革命の後、積み上げて来たものが次々と崩されて行くもどかしさを日々感じていました。それが、ついにこんなおそろしい惨事を生むとは。

朴槿恵が大統領に就任したのが2013年2月。セウォル号の惨事が起きたのが2014年4月16日です。セウォル号から朴槿恵が弾劾されるまでにかかった歳月は2年11ヶ月でした。尹錫悦が大統領に当選したのが2022年3月。そのわ

ずか7ヶ月後に今回の惨事が起こりました。尹錫悦が5年の任期を全うできないことは確実です。韓国では「尹錫悦退陣」を求める大規模なキャンドル集会在毎週開かれています。

■犠牲者たちの名前を永遠に呼び続けよ

「梨泰院クラス」という大ヒットしたドラマの最初の方に、ハロウィンの日の梨泰院の光景が登場します。たくさんの人々が仮装をして、大きな通りを練り歩くシーンは壮観です。私がこのドラマを見た時は、ちょうどコロナの真ただ中だったので、大勢の人が集まって街を練り歩くシーン

がなぜか懐かしく感じられたのを思い出します。

今回の惨事を一般的な事故と扱うのは完全に誤った見方です。これは事故ではありません。刑法に「未必の故意」という言葉があります。そうなると思って放置することは「過失ではなく、故意

と同じだ」という概念です。今回の惨事は事故ではなく、まさに殺人です。殺人には犯人が必ず存在します。そして、私たちはその犯人を知っています。殺人を見てそのまま通り過ぎるのは、犯罪者に加担することです。なぜこのような惨事が起こったのか。犠牲者の名前も遺影も公開しないのはなぜなのか。それを追及しなければなりません。

歴史は未来に向かって進みます。セウォル号と梨泰院、このあまりにも類似に身震いしているのは私だけでしょうか。国家の不在、責任の隠ぺい。158人もの尊い命がソウルの真ただ中で奪われるという衝撃的な事実。この事実には私たちは向き合っていかなければならないのです。人生の途中で、無残にも命を奪われた彼らの名前を永遠に叫び続けるのです。

今回の惨事は起こるべくして起きたのです。尹錫悦は世論を完全に無視しています。そのような政権の末路はすでに歴史が証明しています。

私がまたソウルに行く日が近いような気がしています。（キム・ヘス）



▲尹錫悦退陣を訴えてキャンドルを灯す韓国民衆

【韓国ドラマ紹介】 女性の幽霊が活躍する韓国ドラマ3作品

「ホテルデルーナ」・「明日」・「サンガブ屋台」

久々の投稿になります。最近ではインターネット配信でドラマや映画を見ることができ、便利になりました。なにせレンタルショップに借りにいかななくても良いし、スマホに配信元のアプリを入れればスマホでも見ることができます。



この間、私が見たネット配信の韓国ドラマの中でお勧めの3作品を紹介します。3作品の共通点は主人公が女性で、しかも幽霊であることです。

1本目は「ホテルデルーナ」。ソウルの明洞にあるホテルデルーナは、生前に様々な事情を抱えた幽霊だけが泊まることができるホテルです。このホテルの女性社長マンウォルは気難しい性格で、同じホテルに働く者（幽霊）たちをハラハラさせます。そんなマンウォルと一緒に働くことになったク・チャンソン（こちらは男性で人間）を中心に、宿泊する幽霊たちの願いを叶えたり、恨みを晴らしたりするドラマです。

2本目は「明日」。こちらストーリーは、自ら命を絶とうとする人たちを救おうと活躍する幽霊たちの物語。あの世の企業「走馬灯」の危機管理チーム長のク・リョンは、クールな性格で死を望む人々には厳しい態度をとりますが、必ず命を救おうと努力する幽霊で、その下で働く仲間たちと命を救うために活躍する物語。

最後に紹介するのが「サンガブ屋台」。ソウル

で屋台を営む女主人ウォルジュ。ウォルジュはお店で特殊なお酒を客に飲ませるとことにより、相手の夢の中に入ることができる能力を持っています。客の夢の中に入り、客が抱える問題を解決していきませんが、そうするウォルジュにも、ある問題を抱えているという物語です。



3作品とも奇想天外が内容ですが、おもしろい作品です。

「明日」と「サンガブ屋台」はNetflixで見ることができます。「ホテルデルーナ」は現在、Amazon Primeビデオで配信しており、レ



ンタルショップでDVDも借りることができます。

ちなみに「ホテルデルーナ」の主人公マンウォルを演じているのは、「ベイビーブローカー」に出演したイ・ジウンさんです。また12月2日から大手レンタルショップで「ベイビーブローカー」「モガディッシュ」「キングメーカー大統領を作った男」の韓国映画3作品が同時にレンタルされます。まだ見ていない方はショップに足を運んでください。私はキングメーカーを見ていないので、早々に借りに行きます。（ソン）

編集後記

4年に一度のサッカーW杯が開かれています。出場国の国民の応援は熱気に満ちていますね。韓国・日本とも予選突破は厳しい状況ですが応援に熱が入ります。

今回の優勝はどのチームでしょうか？熱戦に期待します。（ソン）

